

第72回

会社訪問

株式会社いすゞ製作所



会社プロフィール

代表者：代表取締役 鶴澤 弥一郎

所在地：〒955-0151 新潟県三条市荻堀字藤平1397-42

TEL：0256-46-2200 FAX：0256-46-2601

設立：昭和13年4月

資本金：5,500万円

従業員：50名

本社：新潟 事業所：関東、東京

事業内容：環境試験機・産業用恒温器・汎用科学機器・気象観測機器の開発・製造・販売

URL：<http://www.isuzuseisakusho.co.jp>

(株)いすゞ製作所 代表取締役 鶴澤 弥一郎 氏へのインタビュー

聞き手：岡田康弘（事務局主事）

編集協力：クリエイティブ・レイ(株)

長年培った“温・湿度”の技術を核に 省電力・カスタマイズの“環境試験機・産業用恒温器”を提供

— 御社は昭和13年に創業され、以来、温度や湿度に関する技術を中心に事業を展開してきたとのことですが、まず会社の歩みを簡単にご説明いただけますか。

当社は昭和13年に、気象観測機器の製造販売を行うため、私の祖父である鶴澤澄によって鶴澤工業所として創業されました。創業時は、祖父が

それまで勤めていた会社のOEMとして温湿度計を作り始めたということです。しかし、祖父は若くして亡くなったため、昭和23年に私の祖母である鶴澤いつが会社の代表となり、昭和26年には社名をいすゞ製作所に変更しました。

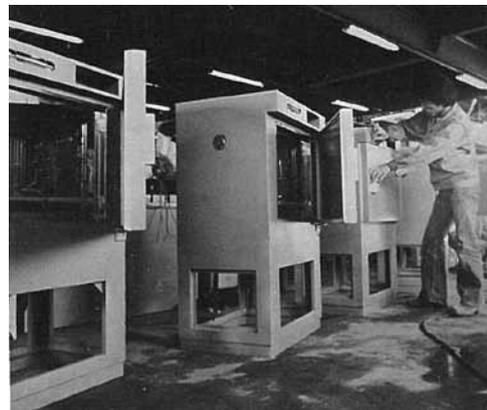
当社は70数年の歴史がありますが、起業してからのおよそ30年は気象庁とともに歩んできた会社と言えます。例えば、当社は温度と湿度を調べる気象観測器などを気



受け継がれる看板



昭和30年代の工場風景



昭和50年代の工場風景

象庁や官公庁に納めてきましたが、昭和38年に気象庁に納めた恒温恒湿器（温湿度計の基準試験器として納入）が今でもきちんと動いており、改めて当社の歴史と素晴らしい機械を作っていたのだと感じたこともありました。

こうした温度・湿度の技術を活かして、その後、汎用科学機器の製造販売にも乗り出し、官公庁や学校に汎用科学機器を納めるようになりました。会社の歴史を振り返ると、前半の約30年は祖母の時代、その後の30年が私の父である鵜澤彌の時代となります。そして、この約10年が4代目である私の時代で、最近は省電力・カスタマイズをメインとした環境試験機・産業用恒温器に力を入れています。

—— 鵜澤社長の代表取締役社長就任が平成18年と伺いましたが、最近の主な取り組みや製品の特長をお聞かせいただけますか。

主な取り組みといたしましては、お客様のニーズに合わせた製品（特注品）カスタマイズ製品や、約10年程前より着手していた「省エネ」を意識した製品に力を入れるため、創業以来製造販売をしていた製品を少々スリム化させて頂きました。特に1997年に採択された京都議定書により環境問題に企業としてどのように協力できるのかを模索して開発されたのが、「みどりシリーズ」です。また、東日本大震災以降につきましては、「省エネ」の発想から「節電製品」としてご協力ができ、企業としてお役に立ててよかったと思っております。

—— 製品カタログや会社案内を拝見すると、会社の姿勢に関するいろいろなメッセージが載せられていますね。

そうなんです。どうしても会社案内や製品カタログというものはお堅いイメージになりがちですが、私どもは目指すところはお客様に相談される会社、困ったときは「いずぶさんに聞いたら!？」と言われたいのです。だから、現在行っている事業の紹介を様々な言葉や、キーワードに変えて載せております。

「人の手で大切に、両手で扱う」

「1から1台から。お客様仕様を創造します」

「100年使えるものづくり!丁寧。丁寧に。そして丁寧に」など



低温恒温恒湿器
TPAC-240-40

また、製品カタログには「お客様の役に立つ企業でありたい」という私たちの想いと、私たちができる3つのことを簡潔にまとめています。その3つとは「省電力製品をご提供いたします」「カスタマイズ製品のご提案をいたします」「旧製品の受注生産をお受けいたします」というものです。

また、私たちの営業に対する姿勢を表そうと、各事業所の名称に「CAP」という言葉を入れ、現在は、ISUZU CAP 新潟（新潟県三条市）、ISUZU CAP 関東（埼玉県狭山市）、ISUZU CAP 東京（東京都新宿区西落合）という形で営業を行っています。CAPとは、カスタマーケア、アクティブ、プレゼンテーションの頭文字で、当社のスタッフは、必要などきにちょっと袖をまくって修理もでき、製品に関する相談にも乗れ、お客様に提案もできるようにしています。

私たちは、お客様のよろず相談所、お客様の工作所、かゆいところに手が届く会社として、「お客様の役に立つ」会社でありたいと思っています。そして、それを行うスタッフこそが、私たちの会社の主役であると位置づけています。

—— 平成22年7月に、本社機能を東京から新潟に移されていますが、これはどのような方針で行われたのでしょうか。

かつては東京本社（営業部・経理）、新潟（開発・工場）各地に事業所があるという典型的な形でしたが、現在は新潟を本社とし開発や製造に携わった経験のあるスタッフをお客様のもとへ出向くような営業スタイルに変えたのが移転した最大の理由です。



20年前の新潟工場

要は技術的な内容を答えられるスタッフがお客様と直接お話しし、それを持ち帰って工場にフィードバックするようにしました。こうしたことにより開発・製造スピードの効率も上がり、全体的なコストの削減にもつながっております。

— 鶴澤社長は4代目とのことですが、社長就任以来、強く印象に残った仕事や出来事があれば、お聞かせいただけますか。

当社は祖母が頑張り、父が発展させてくれた会社ですが、私が社長になったとき、従来の製品を整理することになりました。祖母や父が生み出した多くの製品を販売を終了させたわけですが、これは強く印象に残る仕事となりました。

私としては、それらの製品に対して、ありがとうという感謝の気持ちと、気を引き締めて現代のニーズに合う新しい製品を生み出さなければいけないという思いを新たにしました。そうした思いが、今の環境試験機、産業用恒温器、カスタマイズ、省エネを追求した製品開発へとつながっています。

— 話題は少しそれますが、2代目社長である鶴澤いつ氏は戦後ほどなく代表となり、長く経営にあたられていたようですが、女性社長としてご苦労もあったように思いますが。

女性社長が珍しい時代に社長になり、祖母は気象観測機器の商品を持って全国を歩き回っていたという話を今でも聞きます。また私が地方の会社を訪ねたときなど、「お母さん、お元気ですか」と祖母のことを尋ねられることもありました。



昭和60年代の工場風景

昔、祖母に世話になったという話をされる方もおり、販売店や仕入先などから大事にされていたようです。豪快で、人情味のある、おふくろさんという感じの人柄だったようで、武勇伝のような勇ましい話を聞くこともあります。

— 御社の今後の目標や課題などを、お聞かせいただけますか。

課題として挙げられるのは、弊社のスタッフが、どれだけお客様の懐に飛び込めるか、お客様が求めているものをどこまで開示していただけるか、だと考えています。製品に対するお客様の要望はどんどん高まっていますが、その要求に応えながらカスタマイズ製品を作ることは、確実に私たちのスキルアップにつながります。そのスキルは一般的な勉強では知り得ないものが殆どです。ただし、要求が高いほど秘密事項も多くなります。それを開示していただくためには、私たちの信頼度を上げなければいけません。つまり、もっともっと難しい課題をいただける会社になることが、今の課題と言えます。

— その他、心がけていることや大切にしていることはございますか。

私たちは温湿度の歴史は長いのですが、環境試験機メーカーとしては歴史は浅く、知名度は全くありません。しかし、環境試験機を探しているお客様がインターネットで「環境試験機」や「恒温恒湿器」などのキーワードを検索し、当社のサイトを尋ねてくださる方も多くなっています。そういうユーザーのためにも、事業内容のレベルを上げていくことはもちろんですが、ホームページも魅力的にし、当社を発見していただくことも重要だと思っています。

そこでホームページには、当社の特長である、付加価値を高めた製品の提供、省電力に取り組んでいること、製品の提供後もケアを大切にしている点などをきちんと伝えるようにしています。

— 会社の経営方針とは別に、鶴澤社長がモットーとしている言葉などがあれば、教えていただけますか。

モットーではありませんが、好きな言葉に「ありがとうございます」があります。また、私たちの工場に来ていただくと分かるように、工場内には至るところに貼り紙があります。そこに当たり前のことですが、「挨拶はきちんとしよう」とか「ゴメンナサイは仲間を作るキーワード」など、好きな言葉が書いてあります。生きている限り、人生は修行だと私は考えていますが、素直な気持ちで謝ること、感謝することなどを、常に心に置いていたいと思っています。

— 工場内に貼り紙をしているというお話でしたが、鶴澤社長から社員の方々に日頃から伝えていることなどはございますか。

当社を訪れた方によく言われるのは、「元気のいい会社ですね」という言葉です。当社ではお客様がみえると、やっている作業の手をいったん止め、スタッフから「いらっしゃいませ」と挨拶をするようにしています。ただし、これはやりなさいと強制するのではなく、自然と挨拶の言葉が出るように習慣としてできるようにしています。

その他では、当社では始業前の朝の数分間、掃除をし、軽くウォーミングアップをしてから仕事をスタートするようにしています。私たちの会社には板金の仕事もありますが、素足で歩けるぐらい床も綺麗にしています。これはス

タッフ全員が、働くステージは綺麗にするという想いを共有してくれている結果だと思っています。

— プライベートなことになりますが、休日などはどのように過ごされているのでしょうか。

休日の過ごし方というよりは、現在は休日のほとんどを家族と共に過ごしております。ただ時間が許せば、好きな映画や時代劇などを見ています。特に、人間味を感じさせるような作品をを好んで見ています。たまにですが、お遊びで釣りをしています。

— 最後に当協会に対し、ご意見やご要望などがあれば、お聞かせください。

協会の交流会は他の会員企業の方々との出会いの場となっていますが、全国規模で交流知る機会が少ないような気がします。全国の会員の方々とお会いできる機会を増やして頂けると良いのではないかと考えています。

あらゆる知略を尽くして家を存続させる その生き方に感銘を受けました

好きな歴史上の人物は沢山おりますが、特に一押しは真田昌幸（戦国武将）です。決して大きな勢力ではなかったものの、主君を多々変え、大敵から知略を尽くして家を守り、晩年には2人の息子を徳川方と豊臣方にするなど、敵と味方にしてまでも家を存続させる。自分では出来えないその生き方に強い感銘を受けました。



現在の新潟本社の製造工場風景



コールセンター